

古楽盤を聴く(1)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(1)—

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデル、ヴィヴァルディ、ハイドン、古典派のアナログ盤を聴き直してきました。今回から、時代をさかのぼって古楽盤を聴いてみることにしました。

2. 古典派のアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、古楽のアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

さらに ZANDEN Model 120 の仮想アースが、Crystal E から Crystal E-G に代わっています。

今回は、次の古楽盤を聴いていきます

ARCHIV MAF-8051/3

ゴシック時代の音楽

デヴィッド・マンロウ指揮ロンドン古楽コンソート

3. 古楽のアナログ盤の試聴結果

ARCHIV 盤ということで、TELDEC、R、第4時定数 Mid で聴いていきます。

この盤は、ゴシック時代の音楽を集めた3枚組で、次の構成です。

ノートルダム楽派 (1160 頃～1250)

レオニヌス 2 声のオルガヌム

ペロティヌス 4 声のオルガヌム

アルス・アンティクワ (1250 頃～1320)

作者不詳 モテトゥス 10 曲

ペトルス・デ・クルーチェ モテトゥス 1 曲

アダン・ド・ダ・アル モテトゥス 2 曲

作者不詳 モテトウス 1 曲
アルス・ノヴァ (1320 頃~1400)
作者不詳 モテトウス 3 曲
フィリップ・ド・ヴィトリ モテトウス 2 曲
ベルナルド・ド・クリュニー モテトウス 1 曲
作者不詳 モテトウス 1 曲
アンリ・ジル・ド・ビジュー モテトウス 2 曲
作者不詳 モテトウス 3 曲
ギョーム・ド・マショー モテトウス 4 曲
作者不詳 モテトウス 2 曲
フィリップ・ロワイヤール モテトウス 1 曲

もっとも古い時代のノートルダム楽派の 2 声のオルガヌムと 4 声のオルガヌムは、カンターテノール、テノール、バスの構成のアカペラの歌唱で、ベルのアクセントが加わります。2 声 4 声のアカペラが、残響の長い収録環境の中でのハーモニーを聴かせてくれます。

次に古い時代のアルス・アンティクワでは、モテトウス 14 曲が収録されています。付属の解説には、擦弦楽器 2 種類、撥弦楽器 3 種類、木管楽器と金管楽器各 1 種類、鍵盤楽器 1 種類、打楽器 2 種類、ベルの計 11 種類の楽器の写真が掲載されていますが、いずれも現在の楽器とは異なるものです。これらが曲毎に構成を替えて入れ替わり、歌唱の伴奏に使われますが、音色も現代楽器と異なり、のどかで懐古的な印象です。

もっとも新しいアルス・ノヴァでは、モテトウス 20 曲が収録されており、器楽演奏も含まれています。時代が下るにつれて、単調な旋律の繰り返しから、抑揚、強弱がついて複雑な展開になってきます。

上記すべてについて、歌唱、器楽とも、音質は緻密で明晰であり、定位もしっかりとれています。

なお、上記の一部の採譜の写真もありますが、現在の楽譜と異なる表記法です。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンティスタティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G と Crstal E-G や Magic Mat II の結果をトレースでき、ゴシック時代の音楽について、演奏スタイルとともにレーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上